上海・南京旅行記　（2016.4.22～24）

南京は初めての訪問地である。旧友のＹ氏（中日新聞元記者）と南京大虐殺博物館に行くことで合意したのが背景にある。正直一人で行くのは気が引けた。さて上海に前泊し翌日南京まで新幹線を利用した。以下は上海・南京の旅行記である。なお通貨「元」は約 17 円である。

１、　２２日(金曜日)

（１）ＡＮＡで成田発 9：50 に乗り、11：55 に上海浦東第２ターミナルに到着した（時差；１時間)。空は晴天だがスモッグで遠くは見えない。ｐｍ2.5 は１６８とのことだった。日本では７０を超えると大騒ぎになるらしいが、実感として余り健康に悪いという印象はなかった。空港施設は新しくリニュウアルされて６年前の訪問に比べすっかり様変わりしていた。入国管理手続きもスムーズであった。

浦東空港から上海市内まではリニア高速鉄道に乗った。いわゆる磁気で浮揚させる最新式の列車である。２０１０年に完成し空港と上海中心まで１０数分で繋ぐ。当初は最高時速５００ｋｍだったが今は３０１ｋｍに調整していた。少々揺れるのが難点だがほぼ快適であった。(写真は車両の中)

浦東中心から地下鉄でホテルのある上海中央駅に行った。地下鉄網も１６本ありメトロは蜘蛛の巣のようになっていた。東京都の地下鉄総延長距離を２年前に超えたそうである。

ホテルでチェックインを早々と済ませ、外難（中国読みでワイタン）にタクシーで行った。距離は１０ｋｍも無いので１０分で到着した。道路は金曜日の午後３時であったが空いていた。そしてタクシー運転手の態度も良好であった。因みにメータータクシーであり、ボッタクリはいないようだ。外灘もすっかり整備されて清潔であった。ここは上海に来るたびに訪問する場所で、川向こう側には金融関係の高層ビルが林立していた。記念写真を取ってもらおうと回りの中国人に声掛けしたがなかなか難しかった。欧米人夫妻を見つけやっと取れた。上海は中国で最も発展した都会であるが、地元市民とのコミュニケーションは難しい印象であった。

（２）夕食は、コンサルティング会社のＨ氏（上海事務所長）と部下のＫ氏とで取った。駅から徒歩５分にある「小南国」というレストランだった。このレストランはチェーン店として有名らしい。ただ料理や飲み物を注文する際に気づいたが、中国語しか解さない従業員ばかりだった。またコンビニストアで買い物した際、英語の数字も通じなかった。７をセブンと言っても駄目で「チー」でやっと通じた。

夕食での話題は、上海の環境問題と経済状況などであった。中国経済の停滞が報道されるなかで、日本企業の撤退コンサル案件と監査がメインの業務だそうだ。需要は増加傾向にあるとのことだ。

２、　23 日(土曜日)

（１）朝６時半にホテルを出た。巨大な上海中央駅に入場する際携帯バックの透視検査を受けた。因みにメトロに乗る際も同様の透視検査を受ける。安全管理は空港と同様である。

この高速鉄道は最高時速 350ｋｍで振動も少なく日本の新幹線と比較しても遜色ない印象を受けた。上海～南京は約 300ｋｍであるが料金は一等席（グリーン車と一般席の中間クラス？）で片道２５０元（４２５０円）であった。

車窓からの眺めで驚いたのは都市近郊に高層アパートが増えたことだ。そして古ぼけた民家は殆ど消えていた。北京オリンピックと上海万博で中国の玄関口の北京と上海はすっかり様変わりしたようだ。

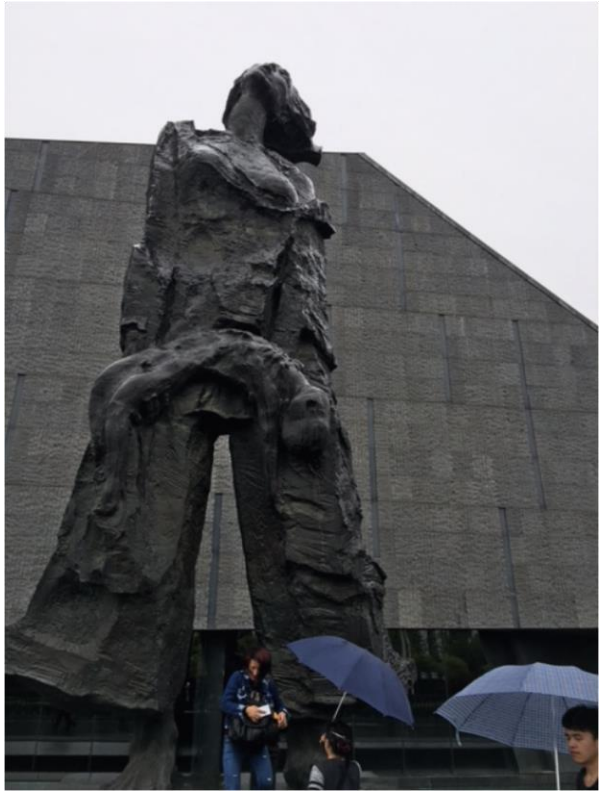
２００９年のリーマンショック後の世界経済危機を中国が救ったことは知っていたが、上海の地下鉄網や高速道路・高速鉄道建設に莫大な鉄鋼とセメントを消費されたことも大きく貢献したのかと思った。

（２）8：40 に南京に到着した。地下鉄を乗換えて「云錦路」で下車すると博物館は駅前にあった。

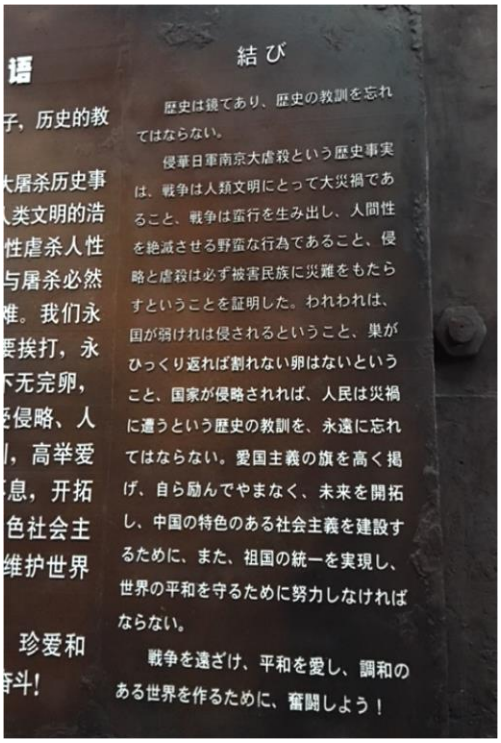
入場整理口から入ってまず驚いたのは会場の側壁に並ぶ巨大なモニュメントである。遠くから見ると何かわからなかったが、近くで見ると子供を抱いた母親の慟哭する姿であった。相当グロテスクである。日中戦争の被害者をモチーフにした等身大のオブジェがさらに数体側壁に並んでいた。このオブジェ群は戦争の悲惨さを強烈に表現していた。(写真ご参照)

さらに進むこと２００ｍ程で巨大な壁の裏側に大きな施設の入り口が見えた。入場は無料であったが、音声ガイド機器のレンタル料金は１０元であった。入場案内人は若い女性で愛らしかった。サービス態度に反日的なところはなかったので少し安堵した。

博物館の前半は、１９３７年からの日本軍の南京侵略のあり様を写真、雑誌、などで、相当リアルに展示されていた。３０万という数字が何度も出てきた。日本人としてあまり居心地の良いものではなかった。友人と入館したのだが、中では会話もなく静かに展示物見学を続け音声ガイドを聞いた。



博物館の後半には、南京大虐殺事件を題材にした映画、ＴＶ番組などが２０近いスクリーンに展示されていた。そして戦争の犠牲者のファイルを格納した大広間に出た。側壁に大きな文字で『前事不忘　後事之師』とある。過去の歴史を忘れず、未来の師としようという意味だ。その横に「結び」というタイトルで中国語の解説と日本語訳が平列して書かれていた。



「結び」は「歴史は鏡であり、歴史の教訓を忘れてはならない。侵華日軍南京大虐殺という歴史事実は、・・・」と続く。この 300 余りの文字は、１９７２年日中平和条約締結時の周恩来の言葉とのことだ。私はこの言葉を繁々と眺め、「中国は弱かったので日本軍に侵略され、こんな酷い目にあわされた。団結して強い国にならないといけない。奮闘努力しよう」と読んだ。非常に解かりやすい。まさしく中国共産党の基本方針ということであろう。

ところで、この教訓はそのまま現在の日本にもあてはまるのではと思った。日本はバブル崩壊後の１９９０年から衰退の道を辿り、政治経済社会その他の面で国家として弱体化している。戦後７０年間安穏な日々が続いたが、日本国民としてしっかりしないといけないと思った。この博物館見学は過去と未来を考える良い機会に

なった。

（３）午後は、地下鉄で「夫子廟」に行った。南京は、三国志時代は呉の都。南宋・明・中華民国の都でもある。夫子廟は科挙試験の試験場であったそうだ。科挙は６世紀隋の時代に始まった官僚登用試験で、浅田次郎著「蒼穹の昴」に詳しい。何千という個室に数日間隔離された受験生が詩文作成する姿が思い浮かんだ。（写真は科挙受験生の銅像と筆者）

そこから「中華門」まで散歩すること１時間。中華門は、南京城郭の南の門で最も豪華な巨大施設であった。この門のルーフは幅１０ｍもある城壁で、南京の南西地区を囲っていた。城壁のルーフをかつては馬車が行き来したが、今は電気自動車で観光客を案内していた。２０元で「武定門」まで乗車した。そこで地下鉄に乗り南京駅に戻り、高速鉄道で上海駅に帰った。小雨がそぼ降る夕方の上海中央駅もなかなか風情があった。

（４）夕食はK氏（中日・東京新聞の上海支局長）と取った。Ｙ氏の後輩で中国駐在通算１０年のベテランであった。中国語が大変流暢で著書２冊を頂いた。海外旅行の楽しみは現地滞在者と食事出来ることである。夕食が事前にセットできたら旅の目的は半分成功と心得ている。レストランは花園飯店の近くの四川料理であった。私はメイン料理に羊の骨付き焼肉を食べた。羊は臭味があるので強い香辛料を付けざるを得ないがなかなか美味であった。そして紹興酒２本空けた。

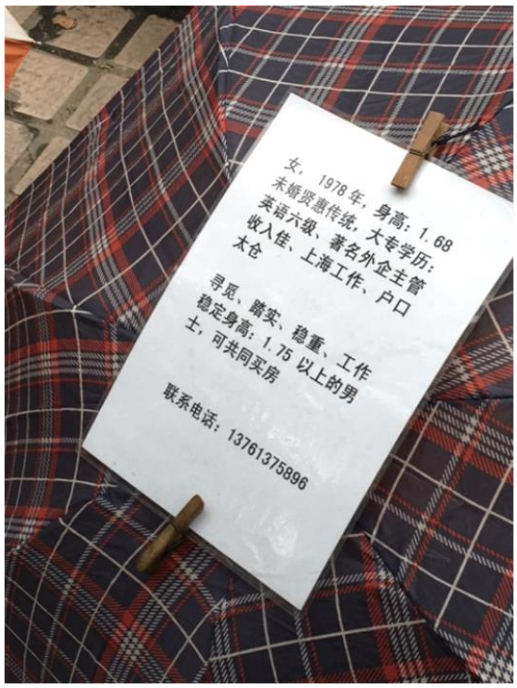
議論の中で記憶に残る発言は、「エリートが先導する統治方法がベストと共産党幹部は信じている。多数の人民は無知蒙昧である。西欧の期待する自由と民主主義では中国を上手く統治できない。中国は国家独占資本主義体制で、社会主義でも共産主義でもない。統治方法は明や清と本質は同じようなものだ」などである。知的興奮のある楽しい夜であった。

３、　２４日（日曜日）

昨晩飲み過ぎたので８時に起床した。旅行カバンはホテルに預けて、南西地区

の水郷の町「七宝」に地下鉄で向かった。ここで屋外自販機を発見した。屋外自販機は治安が良好な証拠であると思う。日本以外で始めて見たので驚いた。

七宝は地下鉄で行ける唯一の水郷の町として沢山の観光客が来ていた。１時間で観光見物を終えて、「人民広場」に立ち寄った。



ここで老人老婆の大集団が傘に札を付けてなにやら相談している光景を見つけた。札には「女　１９７８年　身高１．６８　未婚　・・・。求む　１．７５以上の男性・・・」と書いてあった。親同士の見合い会場であるとわかった。ざっと数百人はいただろう。また将棋やトランプに興じる老人老婆がいた。楽器演奏を楽しんでいる老人もいた。中国の高齢化社会の一端を見た印象を持った。

４、　まとめ

前回の上海訪問は６年前だった。中国はこの数年で更に大きく変貌した。生活水準が格段に向上し、治安とマナーが相当向上したように思う。経済発展に伴い、「衣食足って礼節を知る」状態に近づいているのだろうか。その他気づいた点をあげると以下の通りである。

１、　英語表示は市内各所で多く見かけたが、英語を話す中国人はホテルを除き少数だった。従って観光地での写真撮影を依頼するのも困難であった。

２、　大気汚染は深刻だが、街は大変清潔になった。悪臭も殆どない。但し住宅地を歩いた時、犬や猫などのペットを全く見なかった。

３、　観光地の路上と地下鉄車両の中で乞食に会った。

４、　地下鉄料金は2元から7元と格安であった。なお車両に網棚がない。

５、　レストラン従業員のサービス水準はまだ低い。

６、　南京大虐殺博物館に行った際、紙の資料が無かった。その他の名所旧跡を多数廻ったが、チケット以外の紙がなかった。

７、　上海中央駅のトイレは酷かった。また宿泊ホテルのトイレはウォシュレット未整備だが、ロビーのトイレは整備されていた。

中国については現在「嫌中」情報が氾濫し、日本国民の対中意識は戦後最悪である。しかし中国の日本での報道は相当一面的だとの印象を持った。やはり自らの目と耳で実地見聞することで正しい理解につながると思う。またいつか訪問したいものだ。（2016．５記す）